

こどもの あんぜんカレッジ



1 みずあそび

2 じてんしゃ

3 ちっそく・ちゅうどく

4 かさい・やけど

5 おちる・ころぶ

6 おうちのなかの
「あぶない!」をさがそう

保護者のみなさまへ

このワークブックは、2015年度に実施した神奈川県消費生活課のモデル事業「じょうほくキッズ あんぜんカレッジ」（ご協力：横須賀市 城北幼稚園）および2016年度に実施した同「りょくえんキッズ あんぜんカレッジ」（ご協力：横浜市泉区 緑園なえば保育園）で使用したワークシートを元に作成したものです。本モデル事業は、子ども（5～6歳児）自身が身の回りの「あぶない！」を見つける能力を育て、「あぶない！」から身を守るための知識とスキルを身に付けて、実際に傷害予防行動のとれる子どもになることを目的に実施しました。

モデル事業終了後の保護者向けアンケートでは、

- 自転車に乗る時、子どもが自らヘルメットをかぶるようになった
- エアコンの室外機の上に登ってはいけないと何度言っても聞かなかったのに、「ぼくの頭は重いから、のぞき込んだら下に落ちちゃうんだよ」と室外機の上に登らなくなった
- 小さい妹が何か口に入れてしていると「ママ、大変!」と教えてくれるようになった
- 学んだことを毎回弟に教えていた

といったコメントが寄せられました。たとえ幼児であっても、いえ、幼児であるからこそ、傷害予防教育が一定の効果を示す可能性がある、ということがうかがえるのではないかと思います。

このワークブックは、保護者のみなさまが、お子さん方と一緒に読んでいただける構成になっています。ワークブックが、神奈川県の子どもの傷害予防活動のお役に立つことを願っています。

2017年10月

Safety Kids いずみ
<https://www.safetykids-izumi.jp/>



子どもの傷害予防 チェックリスト

みずあそび

- 海や川に行くときは、子どもにかならずライフジャケットを着せている
- 海や川に行く前に、プールでライフジャケットを着せて背浮きの練習をしている
- 海や川に行くときは、事前に気象情報をチェックし、危険が予測される場合は強行しない
- ライフジャケットのレンタルステーションがある海岸を知っている
- 万が一子どもが溺れた場合の救助法を知っている

(→4ページ、5ページへ)

自転車・自動車

- 自転車ヘルメットは、自分も子どももかならずかぶっている
- ブレーキ幅が子どもの手の大きさに合っているかチェックしている
- 子どもの服や自転車にリフレクター(反射材)を付けている
- 自転車には子どもの年齢・体格に合ったチャイルドシートを取り付けている
- スポークカバーの付いた自転車に乗っている
- 3人乗りの場合は低床型自転車を使っている
- 抱っこやおんぶで自転車に乗ることはない

- 子どもを自動車に乗せるときは必ずチャイルドシートに座らせている
- 子どもが泣いたり騒いだりしても、チャイルドシートから降ろさない
- 助手席にはチャイルドシートは付けない
- 少しの間でも自動車の中に子どもをひとり置いて外に出ることはしない
- 常にチャイルドロックをかけ、子どもがドアや窓の開閉ができないようにしている

(→6ページ、7ページへ)

窒息・中毒

- ブラインドのコードは常に巻き上げているか、操作コードが表に出てないブラインドや、操作コードのないブラインドを使っている
- フードやひもの付いていない服を着せている
- おもちゃ箱は空気孔があるものを使っている

- ミニトマトやぶどうは4つに切って与えている
- 丸いあめは食べさせないか、食べさせるときは座って静かに食べさせている
- 子どもと同じ部屋でネイルの手入れはしない
- たばこ、医薬品、化粧品、パック型洗剤、家庭用洗剤などは、子どもから見えないところか、手の届かないところに保管している
- ラップの芯を通るような小さな物は、子どもから見えないところに保管している
- ボタン電池が内蔵されているリモコンや時計にはテープ等を巻き、子どもが中の電池を取り出せないようにしている

(→8ページ、9ページへ)

やけど

- 電気ケトルやポットは湯漏れ防止機能付きのものを使っている
- 炊飯器は蒸気の出ないものを使っている
- テーブルクロスやテーブルランナーは使っていない
- 花火やバーベキューのときは浴衣を着せない
- 花火やバーベキューのときは足の甲を覆う靴をはかせている
- 服に火がついたときの消火方法を知っている
- 自宅には煙感知器・熱感知器が付いている
- 年に1回は煙感知器・熱感知器の動作テストを行っている

(→10ページ、11ページへ)

転落・外遊び

- ベランダに出られないよう、窓の高い位置に鍵を取り付けている
- 網戸にも高い位置に鍵を付けている
- ベランダの柵と室外機の間は60cm以上離している
- 窓の近くにベッドやソファを置いていない
- 公園遊具の接地面に緩衝材が敷いてあるかチェックしてから遊ばせている
- 遊具で遊ぶときは、自転車ヘルメットを脱がせている

(→12ページ、13ページへ)

1

みずあそび

ライフジャケットは いつきのの？

うみや かわで あそぶとき

うみや かわの ちかくで あそんだり、バーベキューを するとき
ボートに のるとき



背浮きの練習を

- プールでライフジャケットを着て、ラッコになる練習をしておきましょう。



バディ！

- 海や川では、必ずお友達と二人でいること、どこに行くのかをおとなに伝えることを、お子さんと約束しておきましょう。

ういてまつ かならず たすけに きてくれるよ

ライフジャケットを きてうく

おともだちと てをつないで まるくなる

だいじょうぶだよ！と はげましあう



ライフガード

- ライフガードのいるエリアで遊びましょう。
- 神奈川県には子どもやファミリー向けの海水浴場や、ライフジャケットの無料レンタルステーションのある海岸があります。
- 万が一海や川でお子さんが溺れた場合は飛び込んで助けようとせず、クーラーボックスや水を半分くらい入れた大き目のペットボトル、ロープなどを投げ入れ、お子さんにつかまるよう指示します。同時に 119 番（海上の場合は 118 番）に電話し、救助を要請します。



シャワー

- プールにに入る前と後にシャワーを浴びましょう。
- 海からあがったときもシャワーを浴びましょう。

2

じてんしゃ

ヘルメットを かぶるよ

ヘルメットが あたまを まもってくれるよ
おでこが でないように ふかくかぶるよ
すべりだいや ブランコで あそぶときは
ヘルメットを ぬぐよ



乗る前の点検



- ブレーキ幅は、お子さんの手の大きさに合っていますか？ブレーキを握った時、ブレーキバーが第一関節にくるのが目安です。
- タイヤの空気は十分入っていますか？
- またいだ時にお子さんの足は地面についていますか？

服装もチェック

- 服や自転車にリフレクター（反射材）をつけておきましょう。
- ひもの付いた服やひらひらした服は不向きです。



ハンドサイン

まがります!とまります!ちゃんと知らせるよ



交通ルール

- 道路の左側か、広い歩道の車道寄りを走ります。
- 交差点では車道から1メートル程度下がったところで待ちます。
- 横断歩道では自転車を押して歩きます。

歩行者優先

- 歩道には赤ちゃんやご高齢の方も歩いているので、ゆっくり運転するよう指導します。





のどにつまる

たべものや おもちゃが
のどに つまると、
いきが できなくなるよ

くびがしまる

かばんのストラップや
きているふくのフードのひもが
くびにまきつくと、
いきが できなくなるよ



三種類の 窒息



喉に
詰まる

食べ物などが喉に詰まって
息ができなくなります。

首が
絞まる

ブラインドのコードや服についたひもや
フードで首が絞まり、息ができなくなります。

空気が
なくなる

狭い場所に入って酸素欠乏の
状態になると、息ができなくなります。

おうちのなかの「あぶない!」をみつけよう



キッチンの
せんざい



さっちゅう
ざい



くすり
(じょうざい)



くすり
(シロップ)

くすりや せんざいは、
ただしく つかえば やくにたつものだけど、
おとなの くすりを のんだりすると
たいへんなことになっってしまうよ

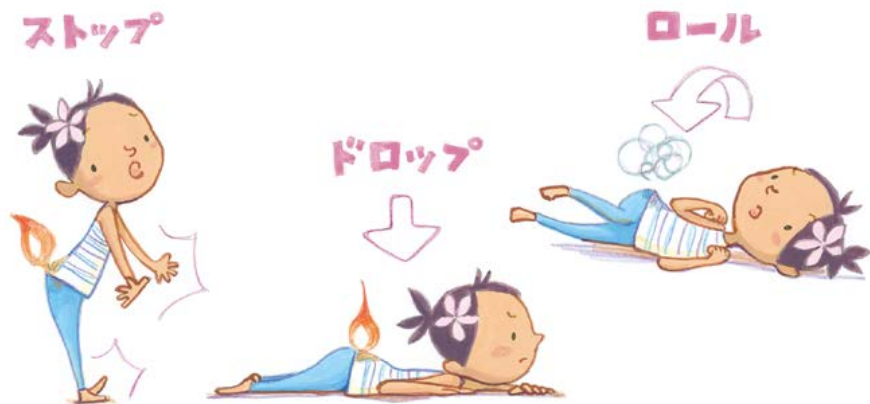


家庭内にある危険

- 乳幼児がマニキュアや除光液を飲んでしまう事故や、除光液に含まれる成分を吸い込んで中毒症状を起こすことがあります。
- マニキュアや除光液は子どもに見せない、子どものいる部屋で使わない、子どもの手の届かないところにしまうことが大切です。



4 かさい・ やけど



ストップ、ドロップ アンド ロール

ふくに ひがついたら、ピタッととまり (ストップ)、

ゆかに ごろんと ころがり (ドロップ)、

ゆかを ゴロゴロころがって (ロール)、じぶんで ひをけすよ

やけどを防ぐために

- 花火をする時は、お子さんに浴衣など、袖のひらひらした服は着せません。また、足の甲をおおう靴をはかせます。
- ライターはCR (チャイルド・レジスタンス) 機能付きのものを 사용합니다。
- 湯漏れ防止機能付きの電気ケトルや、蒸気の出ないタイプの炊飯器を使うようにします。



ドアを てのひらの
はんたいがわで
チェックするよ

けむりかんちきや ねつかんちきが
なったら、すぐににげるよ
でもすぐに ドアはあけないで！
ドアが あつくないか、てのひらの
はんたいがわで チェックして、
あつくなかったら ドアをあけて
にげるよ



火災から身を守るために

- 火災が発生したら、
煙を吸わないよう身を低くして逃げます。
- 廊下で感知器の音がしたら、
廊下に煙や火が充満している可能性があります。
いきなりドアを開けると煙や火が一気に室内に
流れ込むかもしれないので、まずドアが熱くないか
手の甲を使ってチェックします。
- 部屋に閉じ込められたときは、
固いもので床や壁を規則正しく叩き、
消防隊に「ここに人がいる」ことを伝えます。



5 おちる・ころぶ

まどや ベランダには 近づかないよ
みんなのあたまは とってもおもしろいよ
したをのぞくと おっこちてしまうよ



転落を予防するために

- 子どもだけでベランダに出られないよう、窓に補助錠を取り付けます。網戸に取り付ける補助錠も市販されています。
- ベランダや窓の近くに足がかりになるようなもの（ベッド、ソファも含む）は置きません。
- 足がかりになりそうなベランダの柵には透明のシートを取り付けます。
- エアコンの室外機と柵の間が 60 cm 以下の場合、室外機の上部に斜めに板を取り付け、登れないようにします。
- 階段の途中におもちゃや衣類を置かないようにします。



すべりだいのうえでは ふざけないよ

すべりだいや ブランコから

おちないようにするには

どうしたらいいかな？



屋外での転落を予防するために

- 公園や保育施設の遊具の上から落ちる事故が相次いでいます。万が一お子さんが落ちても大きなケガにならないよう、遊具の高さがあまり高くないもので遊ばせる、遊具の下の地面が砂やウッドチップである公園で遊ばせる等の配慮が必要です。
- 転倒やつまずきを予防するため、子どもの足のサイズの合った靴を選ぶことも重要です。



6

おうちのなかの 「あぶない!」をさがそう

おうちの なかの
「あぶない!」を さがそう

家庭の中にも危険な箇所が
隠れています。

お子さんと一緒に「あぶない!」を
見つけてみましょう。

- フードや服のひもが
ドアノブに引っかかると
首が吊られた状態になり、
窒息することがあります。
お子さんの服にひもや
フードが付いていないことを
確かめます。

- ホットプレートや
卓上鍋のコードに引っかかって
熱いものが身体にかけると、
大きなやけどを負ってしまいます。
子どもの動線上に、
コードが出ないように工夫が必要です。



- 歯みがきをしながら歩き回ると、つまづいて歯ブラシが口の中を突いてしまいます。歯ブラシは柄の部分が曲がるものを使います。



いざという時のために

- **かながわ小児救急ダイヤル**
#8000 (毎日 18時 ~ 24時)
(市外局番が“042”以外のプッシュ回線、携帯電話から利用する場合)
045-722-8000
(ダイヤル回線、IP電話、PHS等または市外局番が“042”のプッシュ回線で利用する場合)
- **神奈川県医師会 中毒情報相談室**
045-262-4199 (365日 24時間対応 情報提供料:無料)
- **こどもの救急**
<http://kodomo-qq.jp/>
- **中毒110番 電話サービス**
 - **大阪中毒110番** (365日 24時間対応)
072-727-2499 (情報提供料:無料)
 - **つくば中毒110番** (365日 9時~21時対応)
029-852-9999 (情報提供料:無料)
 - **たばこ専用電話** (365日 24時間対応、テープによる情報提供)
072-726-9922 (情報提供料:無料)

企画・制作: Safety Kids いずみ

監修: 山中 龍宏 (NPO 法人 Safe Kids Japan 理事長、緑園子どもクリニック院長)

西田 佳史 (NPO 法人 Safe Kids Japan 理事、産業技術総合研究所 人工知能研究センター 首席研究員)

大野 美喜子 (NPO 法人 Safe Kids Japan 理事、産業技術総合研究所 人工知能研究センター 研究員)

イラスト: 久保田 修康

このワークブックは、神奈川県の委託事業「子どもの傷害予防教育事業」において作成されました。

2017年10月